三八地労連 結成20周年記念誌

明日へ吹く風Ⅱ

三八地方労働組合総連合

表紙の写真は、2002 年 9 月 15 日に、日本労働組合発祥百周年記念事業実行委員会が建立した「日本労働組合運動発祥之地 日鉄機関方同盟罷工記念碑」です。同盟罷工(ストライキ)は、1898 年 2 月 24 日、当時日本最大の鉄道会社である「日本鉄道」の尻内機関庫から発生し、一日を経ずして東北、関東の全線・全機関庫に広がりました。この争議は、日本労働運動史上初めて労働者側の全面勝利に終わったこと、争議後に機関方らは日本で初めての本格的な単一労働組合「日鉄矯正会」を組織したことからも画期的な出来事でした。

碑は、JR 八戸駅に近い八戸市尻内町人形場 6-5 の小公園(市有地)に建立されました。

三八地労連結成20周年記念誌

明日へ吹く風Ⅱ

試練を乗り越え、「明日へ吹く追い風」に

三八地労連議長　中道　博章

三八地労連は、労働者・県民の切実な経済的・政治的要求の実現をめざして結成された「青森県労働組合総連合（県労連）」の活動を地域で具体化し、まともな労働組合運動を展開していくためのローカルセンターとして、16 組合・オブザーバー 3 組合の参加の下に 1989 年 12 月 7 日に結成され、2009 年で 20 周年を迎えることができました。結成以来、三八地労連の礎を築いて下さった夏堀初代議長、内田二代目議長、田村三代目議長、1998 年以降 10 年間議長を務め三八地労連のスタイルを確立して下さった中屋敷前議長をはじめ、地労連傘下の加盟単組の組合員ならびに協力関係にある民主団体の方々にあらためて感謝の意を表するものです。

地労連は結成直後から「資本と政党からの独立」、「要求の一致に基づく行動の統一」という方針に基づいて幅広い共闘を追求しながら、労働者の権利・生活と平和を守る運動を地域と職場で展開してきました。八戸市に対する「自治体要望書」は結成以来、脈々と続いています。また、組合や組合員の交流のための大切なレクリエーションとして、当初は夏の「地引網交流会」や冬の「麻雀大会」が連続して開催されていましたが、現在は秋の「焼肉交流会」、冬の「ボウリング大会」が恒例行事として開催されています。

21 世紀に入り、戦争の無い、誰もが安心して暮らせる世の中になることを夢見てきたのですが、残念ながらイラクやアフガニスタン問題、多発する国際テロ事件、日本国憲法九条改悪の動き、小泉「構造改革」を発端とするリストラ合理化、貧困と格差の拡大、後期高齢者医療制度など、労働者・国民が望む情勢とはかけ離れた状況が続いています。県内でも有効求人倍率が全国最下位となるなど、景気の先行きが依然として見えない状況です。

しかし、地労連結成 20 周年にあたる今年 4 月、アメリカ合衆国のオバマ大統領がチェコのプラハ演説で「核兵器のない世界を追求する」と表明するなど、核兵器廃絶への新しい展望も生まれました。また、2007 年の参議院選挙に続き、8 月 30 日の衆議院選挙でも自民党が大敗し、主権者の意思で国政を変えられる経験もしました。核兵器の無い世界への動きも政権交代も緒についたばかりであり、それを推し進め、逆行を許さない草の根からの運動がいっそう大切になっていると思います。

地労連結成以来、専従の書記や事務局長として地労連の先頭になって奮闘してきた大西勝巳さんが 2007 年 7 月 7 日の三八地労連第 19 回定期大会当日の夜に倒れ、11 日に逝去し、地労連としての機能低下は避けられませんでした。みなさんも大西さんの存在の大きさを痛感したことと思います。幸い初代事務局長であった新岡武信さんが 2008 年 3 月で定年退職となったのを機に 6 月から事務局としてお願いし、地労連運動を引き継ぐことになり、今は事務局長として奮闘してくれているおかげで運動が前進しています。

結成 20 周年を迎えましたが、三八地労連はまだまだ力不足です。組合員のみなさまや民主団体のお力も借りながら、大西さんの抜けた試練を乗り越え、「明日へ吹く追い風」になるよう更に運動を発展させ、「人間らしく生き、働くことのできる社会と職場」の実現をめざしていくことを確認し、20 周年にあたってのあいさつといたします。